

2月8日（木）に第2回小高区地域学校保健委員会を開催しました。以下、実践報告と協議内容をお知らせします。

平成29年度 実践報告

1 肥満指導

○ 実践報告

小学校

・肥満傾向児への受診勧告

受診勧告を配付した児童のうち、医療機関受診者は6名で、受診率は40%だった。

・健康相談の実施

希望した保護者を対象に、栄養教諭と養護教諭が実施した。

・集団に対する保健指導

・夏休み・冬休み生活チェックシートの実施

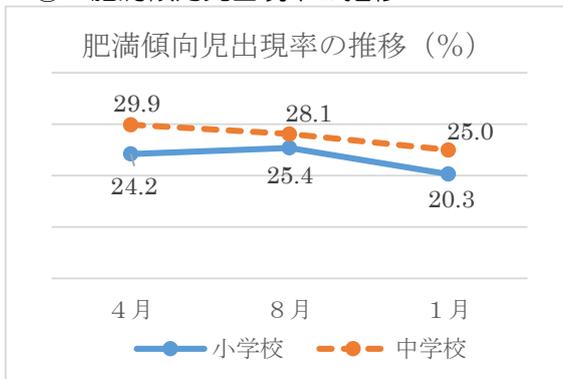
休業中も運動や起床時間、間食に気を付けて生活する児童の姿がみられ、意識化につながった。

・長期休業前後の身体計測と個別保健指導

身体計測の結果と生活チェックシートの内容をもとに、養護教諭が全校児童一人一人に対して個別の保健指導を行った。

・個人ファイルの作成

○ 肥満傾向児出現率の推移



2 歯科指導

○ 実践報告

小学校

・定期的な歯科受診勧告

・歯科医による歯科指導教室

全学年を対象に、染め出しと歯みがき剤を使った歯みがきの方法についてご指導いただいた。

・給食後の歯みがき指導

・歯科健診結果の可視化

歯科検診の結果を歯の図に示し、健康ファイルに貼って、児童・保護者が確認できるようにした。

・歯みがきカレンダーの取り組み

毎月1週間と長期休業中に歯みがきカレンダーを実施した。休日や長期休業中は歯みがきの回数が少なくなる傾向がある。

中学校

・肥満傾向児への受診勧告

受診勧告を配付した生徒のうち、医療機関受診者は3名で、受診率は30%だった。

・健康相談の実施

保護者・生徒を対象に、個別面談の時期に合わせて栄養教諭と養護教諭が実施した。

・食に関する指導

栄養教諭と学級担任が連携し、各学年で1時間ずつ授業を行った。

・学期毎の身体計測

身体計測を学期毎に実施し、その都度結果を成長曲線にして配付した。

・運動する機会の設定

体育の時間の3分間走に加え、昼休みに体育館を開放し、運動の機会をつくった。

小学校

① 軽度肥満以上に該当した児童 17名

② ①のうち肥満が解消した児童 4名

③ ①のうち4月と1月を比べて肥満度が減少した児童 11名

④ ②・③のうち10ポイント以上の改善がみられた児童 3名

中学校

① 軽度肥満以上に該当した生徒 20名

② ①のうち肥満が解消した生徒 1名

③ ①のうち4月と1月を比べて肥満度が減少した生徒 12名

④ ②・③のうち10ポイント以上の改善がみられた生徒 4名

中学校

・定期的な歯科受診勧告

・歯科衛生士による歯科指導教室

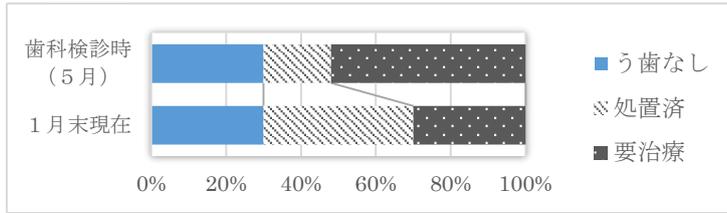
1年生を対象に、歯の染め出しと、歯みがきの方法・フロスの使い方についてご指導いただいた。

・生徒会保健委員会による啓発活動

週1回、給食後の歯みがき状況をチェックし、クラス毎に啓発活動をしている。

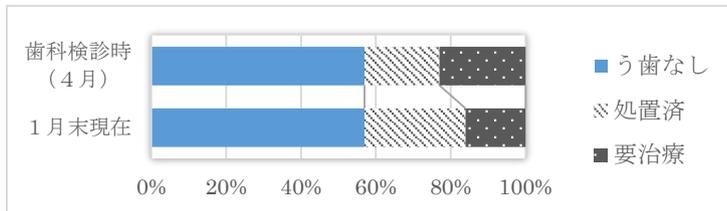
○ う歯治療状況

小学校



歯科検診時にう歯の治療が必要であると診断された児童32名のうち、14名は治療が完了しているが、18名(全校児童の約30%)は治療中または未治療である。

中学校



歯科検診時にう歯の治療が必要であると診断された生徒14名のうち、4名は治療が完了しているが、10名(全校生徒の約16%)は治療中または未治療である。

グループ協議

各校の実践報告の後に、肥満指導グループと歯科指導グループに分かれてグループ協議を行いました。学校医・学校歯科医の先生にも参加していただき、学校医・学校歯科医・PTA・教職員の立場から取組の課題や今後の実践の進め方などについて話し合いました。

肥満指導グループ

- 医療機関を受診した児童生徒の多くに意識した生活や肥満度の改善がみられていたが、受診率は低かった。
 - ・次年度は再勧告や個別懇談等で保健室と学級の連携を強化し、さらに医療機関受診を勧めていきたい。
- 肥満傾向にある児童生徒の肥満度を上げないために何ができるか。
 - ・ランチルームに給食のカロリーなどを掲示していると、食べる量を意識している生徒の姿が見られる。
 - ・普段から体重計にのるようにしていると、意識化につながるのではないか。
 - ・車移動に慣れてしまっているところもある。
 - ・肥満傾向にある児童生徒だけでなく、隠れ肥満も心配。

歯科指導グループ

- 自主的な歯みがきの習慣化と丁寧な歯みがきの実践が課題としてあげられる。
 - ・学級では鏡を見て一本一本丁寧に歯をみがくように指導している。
 - ・幼稚園でも歯科指導教室を取り入れ、給食の後には教職員が仕上げみがきをしている。
 - ・みがく時の力加減や細かくみがくことが難しい。
 - ・染め出しやブラッシングの指導のおかげで歯みがきをしている時間が長くなってきているようだ。
 - ・今すぐには変わらないと思うが、少しずつ続けることが大切。

学校医・学校歯科医の先生からの講話

小・中学校医 鈴木秀幸先生 (上町内科皮フ科クリニック院長)

昨年12月に小高に帰還し、クリニックを再開された鈴木先生から、医師を目指すまでの経緯や小高での再開への想いをお話していただきました。

小学校歯科医 沖田雅之先生 (沖田歯科クリニック院長)

昨今話題になっている「フッ化物洗口」についてのお話をいただきました。フッ化物洗口は丁寧な歯みがきをした後に行うことで、歯ブラシがとどきにくいところにも洗口液がとどき、歯質の強化やむし歯の予防が期待できるとお話しされていました。

中学校歯科医 小林礼樹先生 (小林歯科医院院長)

むし歯や歯肉炎についてのお話をいただきました。現在3~4人に1人は歯肉炎を発症しており、その原因は歯みがきが不十分であることだそうです。そのため12歳までは仕上げみがき、高校生まではみがき残しがないかチェックしてあげるとよいとお話しされていました。

